

JICA 海外協力隊 赴任前留意事項

ナミビア共和国



※本資料に記載の情報は、作成日現在のものであり、その後状況が変化している場合があります。記載内容については正確を期していますが、万が一誤りがあった場合には JICA は責任を負いかねますのでご了承ください。

※本資料は JICA 海外協力隊を対象としたものであり、その他の方には該当しない情報も含まれている可能性があります。

目次

1. 赴任時の携行荷物について
2. 別送荷物について
 - (1) アナカン・郵送等の利用について
 - (2) 通関情報について
3. 通信状況について
 - (1) パソコンの普及状況
 - (2) 携帯電話の普及状況
4. 現金の持ち込み等について
 - (1) 現金持込にかかる注意
 - (2) 両替状況
 - (3) 赴任時に用意することが望ましい金額について
5. 治安状況について（JICAの安全対策については、隊員ハンドブックを参照）
6. 交通事情について
7. 医療事情について
8. 蚊帳およびマラリア予防薬について
9. 任国での運転について
10. お問い合わせ
11. その他

1. 赴任時の携行荷物について

隊員ハンドブック 3-5 出発時の注意事項を必ず確認の上、ハンドブックに記載されている「手荷物として持参するもの」に加えて、以下を持参ください。

- ・ 公用旅券は査証取得を確認(査証は訓練終了後に申請、首下げパスポートケース推奨)
- ・ 公式行事や表敬訪問時に着用するスーツ等の正装
- ・ 常備薬、医薬品類(詳細は「7. 医療事情について」参照)、体温計
- ・ 生活に必要な最低限の衣服、日用品等
- ・ 個人情報を書き留めたメモ(旅券番号、本籍地、クレジットカード番号、カード紛失時連絡先、合意書の締結日、隊員番号、その他)
- ・ 公用旅券、合意書等はスキャンしてデータでも持参することを推奨
- ・ JICA 海外協力隊ハンドブック(冊子もしくはデータ)
- ・ 国際協力共済会 会員ハンドブック(冊子もしくはデータ)
- ・ 活動に必要な書籍等の日本でしか購入できないもの
- ・ クレジットカード

生活用品・電化製品は、メーカーや品質を問わなければ、ほとんどのものが市販されているが、全て輸入品のため価格は高めである。食料品や調理に必要な器具は、首都や主要都市であれば生活に困ることはない程度の品揃えである。しかし、地方の小さな町では、販売されているものは少なく、週末等を利用して近隣の都市へ出向き購入する必要がある場合もある。首都では、オーストラリア米、カリフォルニア米、中華米などに加え、醤油・豆腐・わさびなどが入手可能。みりん・味噌も時々入手できる。衣料品は品質を問わなければ一般的なものは入手可能。しかし、日本人のサイズに合う下着／スラックス類の入手は困難である。

過去に南アフリカの空港トランジットの際に、スーツケースなどの預け荷物が開錠され、貴重品が盗難に遭うケースが報告されているため、貴重品やパソコン・デジカメ等の高額機器については手荷物で持ち込むことが望ましい。

変換プラグについて、ナミビア(及び南ア)は Type M(日本では B3L)と呼ばれる珍しい丸型 3ピンで、日本では入手困難。着任後に当面使用するものを支所にて貸し出し、着任オリエンテーション中に現地で購入すること。なお、Type C(丸型 2ピン)が利用できる場合もある。

預け荷物や手荷物の個数・重量制限については、航空券を手配した旅行会社に問い合わせるか、航空会社のウェブサイトを確認すること。

2. 別送荷物について

(1) アナカン・郵送等の利用について

コロナ禍以降、日本郵便はナミビア宛て国際郵便の取扱いを中止している。

ヤマト運輸ではナミビアへの国際宅急便の取り扱いについてホームページに記載があるが、実際に日本から荷物を送ったものの、ヤマト運輸の様式によるインボイス(内容証明書)では通関手続きができず受け取ることのできなかつたケースが発生している。

以下は平時の際の参考情報だが、荷物の送付は推奨しない。

日本から国際郵便小包等を利用する際に経由地等で荷物が開封され、貴重品が盗まれる可能性があるため、電子機器等を入れないこと。当国の港に直接到着する船便の利用も可能だが、航空便よりも日数がかかるため推奨しない。

赴任前に荷物を事務所に送付する場合は、宛先を次のように記載すること。なお、郵便小包を日本から送る場合は時間を要するため、すぐに活動等で使用するものに関しては、手荷物として持参したほうが良い。ナミビア国内の郵便事情は良好で、配属先までの郵便配達もしくは私書箱宛になる。

郵便小包および DHL、FedEx などの宅配業者(直接配送)を利用する場合:

宛先: c/o JICA NAMIBIA OFFICE (Volunteer's Name)

住所: 17 Liliencron Street, Eros, Windhoek, NAMIBIA 電話: +264 61301236

郵便物(手紙、ハガキ等)の送付先(私書箱宛):

宛先: c/o JICA NAMIBIA OFFICE (Volunteer's Name)

住所: Private Bag 12047, Ausspanplatz, Windhoek, NAMIBIA 電話: +264 61 301236

荷物の引取りは、通関手続きの専門業者に委託する必要があり、関税、委託料、引取り手数料等の支払いが発生する。また、場合によってはかなりの日数を要することがあり、また、書類不備として引取りができないこともあり得る。内容物によっては課税額が高額になる。

(2) 通関情報について

タバコ(400本まで)、葉巻タバコ(50本まで)、刻みタバコ(250グラムまで)、ワイン(2リットルまで)、その他アルコール製品(1リットルまで)、香水(50ミリリットルまで)、化粧品(250ミリリットルまで)、贈答品(1,250 ナミビアドル相当まで)は持ち込みに制限があるので、注意。なお、違法ドラッグ、武器、動物・植物(許可を得ている場合はこの限りではありません)、乳製品、肉類、偽造通貨、ギャンブル機器、ポルノ雑誌類等は持ち込みが禁止されている。入国時に税関職員の指示により荷物検査が行われることがある。

3. 通信状況について

(1) パソコンの普及状況

首都や主要都市ではパソコンが普及しており、インターネットを利用できるカフェやホテルなどもある。当地でもパソコンは購入可能であるが、機種・メーカーなど選択肢が限られている。(DELL や台湾メーカーのもので英語配列キーボード)

(2) 携帯電話の普及状況

首都や主要都市では携帯電話(スマートフォン)は普及しており、当地でも携帯電話(スマートフォン)は購入可能である。(APPLE、SAMSUNG、HUAWEI、OPPO など)

インターネット通信は、都市部では LTE または 3G 回線が利用可能。地方においても 3G(もしくは 2G)にて概ね利用できる。インターネットの利用方法は、携帯電話の回線を利用する事が多いが、自宅に回線を引く事も可能。支払方法は長期契約かプリペイドとなるが、契約の無いプリペイドが便利。任地の通信状況によって利用できないサービスもあるため、任地での通信状況を確認後、各自で利用可能なサービスを選択する。

隊員のほとんどは日本から SIM フリーのスマートフォン(Apple や Android)を持参し、当地で利用している。プリペイドSIM(電話回線)であれば購入後すぐに通話可能。

●通信会社はプリペイド、長期契約共に次の2社である。

- ① MTC(<http://www.mtc.com.na/>) ② Telecom(<http://www.telecom.na/>)

4. 現金の持ち込み等について

(1) 現金持込にかかる注意

申告せずに持ち込み可能な現金の額は 100,000 ナミビアドル(約 78 万円相当、2024 年 3 月為替レート)。トラベラーズチェックは近年の詐欺や不渡り問題で利用出来ない。隊員は着任後のオリエンテーション中に銀行口座(ナミビアドル)を開設する。

(2) 両替状況

外貨の両替は空港内もしくは市内のショッピングセンターなどで可能。日本円からナミビアドルへの両替も可能。ナミビア国内で南アフリカランドは同額で使えるが、ナミビア国外(南アフリカを含む)ではナミビアドルは使えず、また両替も出来ない。

(3) 赴任時に用意することが望ましい金額について

長期隊員は赴任後、銀行口座が開設され次第、現地生活費の支給がある。口座開設後は銀行カードが利用できるようになるため、多額の現金は不要。また、ナミビア国内ではカード利用が一般的。近年の隊員は、初回の両替額が5万円程度で当面の生活費としている。

5. 治安状況について（JICAの安全対策については、隊員ハンドブックを参照）

ナミビアは、政治的に安定しているが、新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の停滞、上昇を続けるインフレ率、高い失業率を背景に、かねてからの課題である経済格差が深刻化しており、これに伴う治安情勢の悪化が指摘されている。一般犯罪の窃盗、スリ、車上荒らし、ATMでの強盗、家宅侵入盗等が急増しており、在留邦人、JICA関係者や邦人旅行者の被害報告も多数あり、十分注意が必要である。併せてクレジットカードのスキミング被害も報告されている。

外務省のナミビア危険情報レベルは、2024年2月にレベル1となり、先に記載した通り一般犯罪は増加傾向にあり、銃器やナイフ等を用いた犯罪も発生しているため対処を間違えると命の危険が有ることを認識する必要がある。併せて、詐欺等の非暴力事案も発生しているため、十分な注意が必要である。

現在、JICA関係者は首都ウイントフックおよび西部ウオルスベイでの徒歩移動は終日禁止、他地域でも徒歩移動は6:00~18:00のみ可。町中移動は、呼出しタクシー、運転手付レンタカーの利用可で、流しのタクシー、乗り合いタクシー等は利用禁止。また、施錠ができない施設での宿泊(テント、グランピング含む)は禁止。詳しくは着任後のオリエンテーションにて説明する。

6. 交通事情について

車優先の社会で、町中の交差点には信号機(ロボット)があるが、歩行者信号は壊れていることが多いため、道路横断時は注意が必要。

公共交通機関はあまり発達しておらず、地方都市を結ぶ航空便は運航日、便数が少ないなどの制限がある。陸路移動は都市間を結ぶ乗合タクシーやシャトル(バン)、長距離バス等があるが、目的地に希望通りの時間で到達するのは困難である。都市間移動については、6時から18時のみ可能。移動手段としては、安全上の理由から、乗合タクシー不可(座席を買い取り借上げタクシーとすれば可)、乗合バス不可、席が指定されているシャトルは可。

道路状況は、幹線道路は舗装されており良好だが、幹線道路を外れると未舗装道路が多い。都市間の幹線道路は対面通行区間が多いため、無理な追い越しなどによる交通死亡事故が多いので、車両や運転手の状況確認やバス会社の選択など利用者も注意が必要。搭乗者は後部座席であってもシートベルトを必ず着用する。

7. 医療事情について

ナミビアは、国立中央病院が第3次医療施設の機能(脳、心疾患等に対応)を有し、地方では公立病院(District Hospital)や公立診療所(Clinic, Health Centre)が存在する。しかしながら、これら公的機関では、医療設備や技術も限定的なため、私立病院(Private Hospital)や私立診療所(Private Practice)での受診を勧める。医師の数は少なく、公立病院でも慢性的な医師不足で地域医療は厳しい状況にある。首都や一部の地方主要都市では、富裕層及び外国人居住者等を対象とした海外資本の私立病院が、比較的高度な医療(CTスキャンや集中治療室の完備)を提供している。しかし、脳神経、心疾患治療等の検査や治療に関しては人材、医療器材共に限界があり、南アの病院への移送・受診が必要となることがある。歯科については、出来る限り出発前に本邦で治療を済ませることをお勧めする。



24時間救急対応の総合病院や専門医の診療所もあるが、緊急の場合を除き、余裕を持って受診することが必要。また、これら私立病院での診療経費は高額であり立替払いとなるため、ある程度の現金またはクレジットカードを準備しておく必要がある。

以上